

Contents

- Enjoy! Arts & Entertainment
- 01 ギャラリーめぐりで  
日常にアートを!
- 05 WALK ON 伝説と歴史の舞台を歩く  
野洲川 湖南市
- 06 暮らしの中に滋賀の風  
レトロな遊びが進化!?  
`戦国カロム、参上!
- KEIBUN友の会員特典のご案内
- 07 イベント/bjリーグ/シネマ/アート/スポーツ/  
ゴルフ/旅行/レジャー/健康/カルチャー/グルメ
- 25 プレゼント/Reader's Letters

●表紙 [Amazing! Museum~感動空間への招待④]  
ルーヴル美術館(フランス)

映画「ダ・ヴィンチ・コード」の舞台にもなった、パリのセーヌ河岸にある世界最大級の美術館(博物館)。先史時代から19世紀までのさまざまな美術品3万5千点近くが展示され、世界で最も入場者数が多いといわれている。

ギャラリーの  
原点

フィレンツェの名門  
メディチ家が邸宅の回廊で  
コレクションを公開

ギャラリーの類語にイタリア語のガレリアがある。部屋と部屋を結ぶ回廊を意味する。イタリアのフィレンツェを支配したコジモ・デ・メディチ(1389~1464)は、ルネサンス期の最大のパトロンとして多くの芸術家を庇護した人物。彼が自宅の回廊を市民に開放し、美術品のコレクションを自由に閲覧させたのが、ギャラリーの始まりといわれている。このことから美術品を見せる目的の部屋を意味するようになった。



写真は回廊式のgallery サラ(本文3ページ)

~感性を磨く、感動を見つける~  
Enjoy!  
Arts & Entertainment

ほんの少しの好奇心と最初の一歩を踏み出す勇気—  
扉の向こうにあなたの知らない素敵な世界が広がります

ギャラリーめぐりで  
日常にアートを!

自分から積極的に美術館の展覧会などに行かない限り、日々の中でアートにふれる機会は少ない。日常的にもっと身近にアートを感じてみたいあなたに「ギャラリーめぐり」がおすすめ。気軽に立ち寄ってアートを楽しんでみてはいかが? 町家を再生したギャラリー、カフェを併設したギャラリーも多く、お茶でも飲みながら、すてきな空間でのんびりアートを眺めるのもいい!!

ギャラリーめぐりで日常にアートを!

町で見つけた  
おすすめギャラリー

季の雲 TOKI NO KUMO



長浜市の住宅街にある人気のギャラリー。作家との出会いを大切にするオーナー夫妻がセレクトした日本の生活道具などの作品が楽しめる。最新の企画展は4/11~26斎新・厚子(陶磁器)。

長浜市八幡東町211-1  
 TEL.0749-68-6072  
<http://www.tokinokumo.com/>

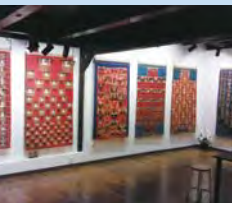
ファブリカ村



「つくるよるこびにふれる場所」を作りたいとの思いから、織物工場であった場所をカフェとギャラリーを併設したものづくり体験の場に。現代のアーティスト&クラフツを滋養から発信する。

東近江市佐野町657 北川織物工場  
 TEL.0748-42-0380  
<http://www.fabricamura.com/>

ギャラリーオー



丸屋町商店街のアーケードの中にある、明治時代に建てられた町家を活用したギャラリー。奥はカフェスペースになっていて、温かい雰囲気がお客さまや作家たちの憩いの場になっている。

大津市中央1丁目8-8  
 TEL.077-521-4515  
<http://gallery-o.net/>

cafe & gallery キマツシ



古民家をそのまま利用して、写真、イラストなど幅広い作品を展示。4月は「春まつり」と題してワークショップやライブなど楽しいイベントが盛りだくさん。カフェの縁側の席からは仰木の棚田も。

大津市仰木2丁目34-12  
 TEL.080-5318-5073  
<http://kimassi.main.jp>



Cafe & Gallery ハクモクレンの常設展示より

Step 3

コンセプトもいろいろ  
お気に入りの  
ギャラリーを見つけよう

探訪! 滋賀のギャラリー

豊かな歴史と伝統文化をもつ滋賀県では、町家や古民家を再生したギャラリーが増えている。日本人の美意識を凝縮した木造建築の空間そのものがアートであり、そこに作家の作品を配することで、眠っていた生活空間の息吹がよみがえってくる。

その好例が、東近江市の五個荘にある「カフェ&ギャラリー ハクモクレン」。当地で陶房を構えるオーナー有岡保行さんのこだわりで、築後200年の商家の空間をそのまま残し、傷んだところだけを修復。広い空間を贅沢に使って、有岡さんが注目する若手作家を中心に月単位



Cafe & Gallery Hakmokuren (ハクモクレン)

●東近江市五個荘川並町732-1  
 ●TEL.0748-26-2429  
 ●毎週金・土・日・月のみ営業 / 11:00~18:00  
 ●<http://ariproduct.com/>

企画展の予定

4月 浅野哲(陶芸) / 5月 山内厚可(陶芸)  
 6月 重森陽子(陶芸)

で企画展を開催している。天井裏や蔵の2階も展示スペースになるなど、自由な空間に想像力が広がる。  
 「若い作家が安心して展示できる、将来が期待できる若い芽をここから育てる、作家にフレンドリーなギャラリーです。そして、ここに来ればいいものが見られる、そういうギャラリーにしていきたいですね」と京都嵯峨芸術大学元教授だった有岡さんならではのコンセプトだ。  
 奥のカフェでは有岡さんの淹れるこだわりのコーヒーでくつろぎのひと時を。

ジャンルは、絵画や彫刻、陶芸、写真など実にさまざま。著名な作家には熱心なファンもいるが、多くはこれからの活躍が期待される作家で、アートの現場で純粋に創作に励む人たちが。発表の場を求め、多くの人たちに自分の作品を見てもらいたいのが本音。ふらりと入ってくるお客さまは大いにウエルカムなのだ。  
 作家が在廊する場合は、気軽におしゃべりをしてコミュニケーションをとることもできる。作家の将来の成長を見る楽しみも。好きな作品があればその場で購入することも可能だ。  
 ギャラリーは、アートとの出会いだけでなく、人と人との交流が生まれるサロンでもある!!

Step 2

アートを楽しむながら  
運が良ければ作家と  
コミュニケーションも

アートは人との出会い

ふれることができる、オープンなギャラリーが増えている。最近ではカフェが併設されたギャラリーも多く、喫茶店代わりのぞいてみるのもいいかもしれない。  
 扉をあけて「こんにちは」と声をかければ、フレンドリーな笑顔が返ってくるに違いない。初めてのギャラリーはちょっとドキドキするけれど、とても刺激的なのだ。

あっと驚くアートとの邂逅!!  
ようこそギャラリーへ



gallery サラ

●大津市北比良1043-40  
 ●TEL.077-532-9020  
 ●火・水曜休業 / 11:00~17:00  
 ●<http://www.eonet.ne.jp/~utsuwa-sala/>

企画展の予定

5/2~5/24 谷所由紀子(洋画)  
 6/6~6/21 熊本象(陶芸)  
 7/4~7/26 山本哲也(陶芸) 浦辻靖弘(木工)

カップも皿もすべて有岡さんの手づくりという、オーナーの思いがいつだって詰まった空間なのだ。  
 一方、市街地を離れ、郊外の豊かな自然の中でアートを楽しめるギャラリーも。比良山の麓、小川のせせらぎが聞こえる森の中にたたずむ「ギャラリーサラ」。内部は石畳の回廊になっていて、黒と白の漆喰壁、アンティークな調度品が絶妙の空間を生み出している。中庭の杉の緑もまばゆい。  
 「お客さまにイメージしていただけるよう、あえて四季を感じさせない造りにしました」とオーナーの塚原令子さん。展示のジャンルは若手からベテラン作家まで多岐にわたる。「この空間をイメージして作品の制作を依頼しています。ここでしか見られない作品をここでしかできない見せ方で楽しんでもらいたいのです」。奥には中国茶や中華粥ランチが味

わえる茶家があり、ここで回廊全体を見渡しながら、そこに漂う時間を過ごすのも悪くない。今季もオーナー厳選の作家たちの展覧会を予定。「東京発信の作家さんを簡単に呼んで来て展覧会はしたくない。サラが見つけて滋養発信にしたいですね」と塚原さん。  
 滋賀の町を散策する時は、コンセプトの異なる個性的なギャラリーにも注目してほしい。あなたの感性を刺激する、お気に入りのギャラリーがきっと見つかるはずだ。



ギャラリーめぐりで日常にアートを!



Talk @ Gallery

「ハクモクレン」常連のお客さまをお招きしてオーナー夫妻との楽しいトークを誌上採録!!

有岡保行さん・登美さん × 三木勇雄さん・宣子さん

Cafe & Gallery Hakmokren

Guest

有岡保行さんは京都嵯峨芸術大学元教授、現在はAri Product代表。  
奥様・登美さんと一緒にCafe & Gallery ハクモクレンを営む。

近江八幡市安土町在住。勇雄さんは趣味として羊の毛刈り職人、著名なフェルト作家とも  
交流を持ち自身も製作を手がける。奥様・宣子さんと一緒に美術等の鑑賞を楽しむ。

**三木(勇)** ● 町なかのいわゆるギャラリーはなんとなく無言の圧力を感じる場所が多いですが、ここはそうじゃない。なんか私の波長と合うのかな。

**有岡(保)** ● ギャラリーによっては入りづらいところもあります。お客さまとの接点が少なくなっているのかもしれない。お客さまともしっかりつなごりたい。そういった思いからこのギャラリーをオープンしました。

**三木(勇)** ● ここはいつ来てもほっとする雰囲気です。それに来ると、毎回違う発見があつてちよつと得した気分にもなります。

**有岡(保)** ● 一般的なギャラリーはスペースが決まっています。作品の点数も限られています。ここはいくら作品を持ってきても構わない。空間を自由に使うてもらったほうが、観る人も楽しめる。自由な空間だから来ていただくたびに新たな発見があるのかもしれないね。

**三木(宣)** ● 私はもともと絵が好きで、京都・滋賀に機会があればよくいきます。だけど、有

アートにふれながらオーナーと気軽におしゃべりを楽しむ

有名な作家の展覧会だと人が多くてじっくり見られない。幸いここは近いから、もう一回見たいなあと、会期中に3回来たこともあり。これが京都なら3回も足を運ぶことはないでしょうね。

**有岡(登)** ● 何回でも来ていただきたいですね。作家の方にもここで多くの方に作品を何回も見ていただいて名前を覚えてもらって次のステップになればと思っています。

**有岡(保)** ● 若手作家の方は発表する場が限られています。実は私も若い時は苦労しました。そんな思いから若手作家の方を中心に展示をしていただいています。ここへ来た若手人のバイタリティーがみられる、そんなギャラリーなんです。どうしても陶芸の知り合いが多いので、展示の7〜8割は陶芸の作品になります。年に一度は絵画の作品展もやっています。ゆつくり見ていただきたいので1か月間、企画展という形でお願いしています。

**三木(勇)** ● 企画展には自分の得意なジャンルもあれば、そうでないジャンルもある。だけど、そういうものを超えて、私に何か投げかけてくれる。とても刺激的ですね。

**有岡(保)** ● お客さまは三木さんご夫婦のようにリピーターが多く、一度来られた方は必ず、数日後にお友達を連れてきてくださいますし。

**三木(宣)** ● 私はここが好きなので、人にはあまり紹介したくないなあ(笑)。

**有岡(登)** ● たくさんのお客さまが来てくださるのは嬉しいですが、私たちもお客さまが一人で静かに過ごせる時間を大切にしたい。ここでゆつくりしていただいて、何か好きなものを見つけていただくとか、そういう空間を提供することを私たちは心がけています。

**有岡(保)** ● このゆつたりとした空間で気に入ったものをセレクトしてもらい、未永く使ってほしい。基本的には器(食器)のように身のまわりにある身近なものを展示しています。実際に手に触れて、口をつけて確かめられるのが魅力だと思うので、皆さんにもお気軽に入りの作品を探しに気軽に立ち寄っていただきたいですね。

(敬称略)